

山羊による緑地再生 に関する共同研究



岐阜大学応用生物科学部
動物栄養学研究室
八代田 真人

■ 研究の目的

■ ヤギによる緑地再生（荒廃農地対策）

- 雑草を抑制し景観を保持，改善する
- 防災機能の低下（土砂崩れなどの発生）を防ぐ
- 獣害の原因となる動物の隠れ場所を減らす

■ ヤギの新たな活用法の探索

- 在来家畜の維持，保全
- 人と動物の関係の再構築

■ ヤギの飼育と利用

山羊 , *Capra hircus*

■ 乳としての利用

- 牛乳および母乳の代用となる（貧者の牛乳）
- 下痢などの症状が起きにくい。
- 乳量（**500–1,000 kg**：ザーネン種）

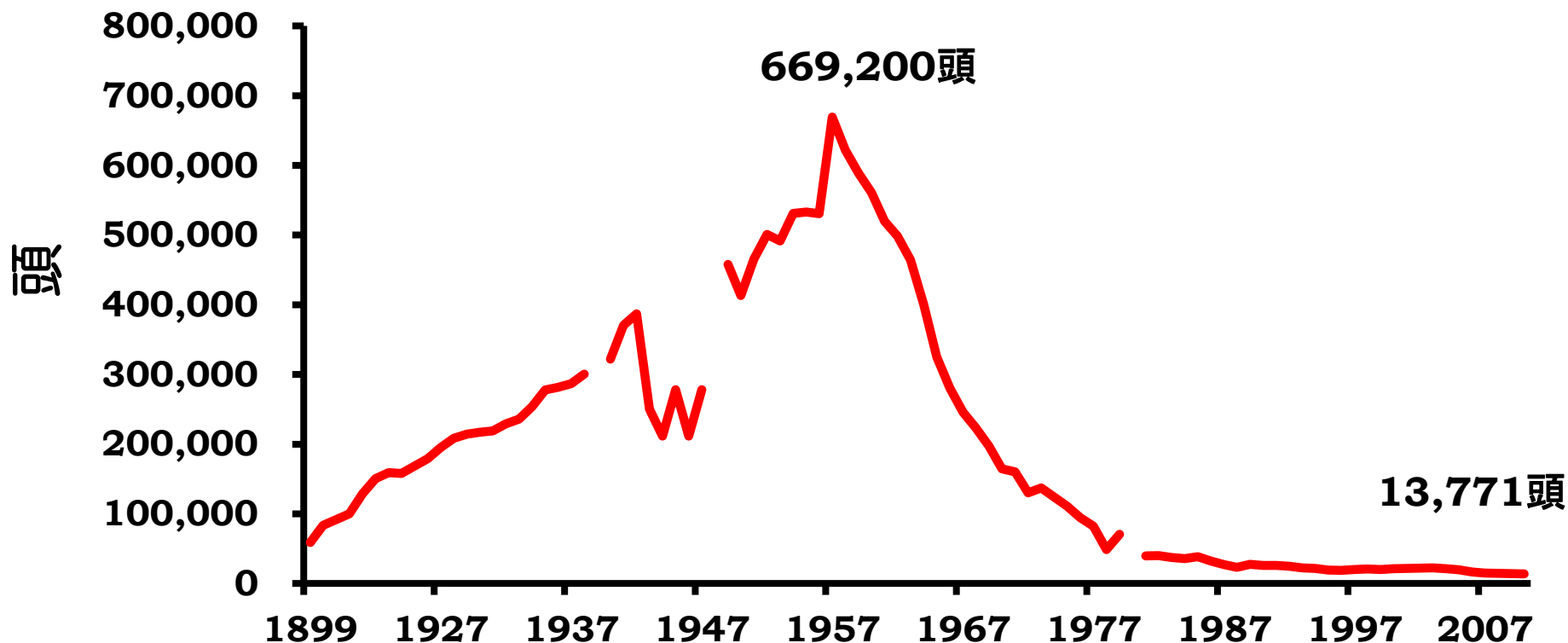


■ 肉としての利用

- 宗教的な忌避がない。
- 低脂肪，高タンパク質。
- 日本では沖縄や奄美地方での生産が盛ん。

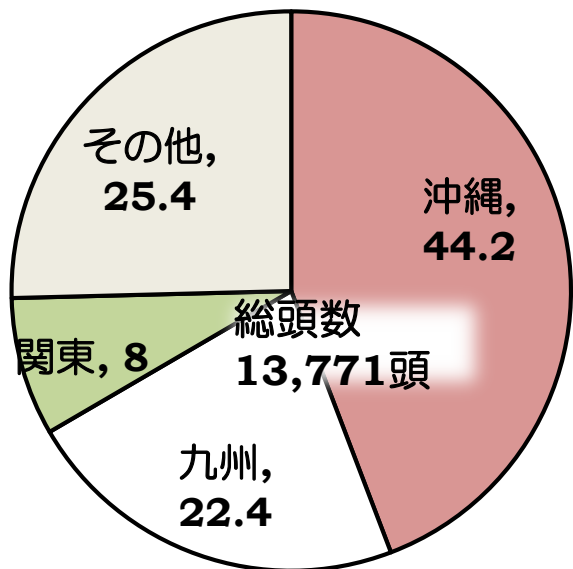


■ 日本国内のヤギの飼育頭数



1. 1899-1980年までの飼養頭数は畜産統計による，1981年以降の飼養頭数は家畜改良関係資料（明け2才以上雌，繁殖供用雄の頭数）による。
2. 1944-1972年まで沖縄の飼育頭数が統計から除外（米国による占領のため）。

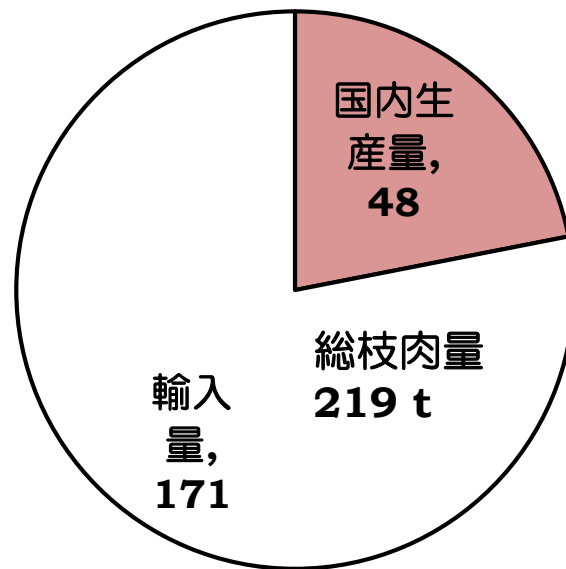
■ 日本国内のヤギ飼育の現状



2010年地域別飼養頭数割合(%)

山羊統計. 社団法人畜産技術協会より作成.

- 沖縄が44%, 次いで九州（あわせて65%程度）.
- 近年は沖縄と鹿児島での減少が顕著.
- 沖縄と九州は肉用, その他の地域は乳用が主体.



**2007年山羊肉の生産量と輸入量
(枝肉量 t/yr)**

農林水産省生産局畜産部畜産振興課 (2009)
めん羊・山羊の改良増殖等をめぐる情勢.

- 枝肉の総量は200 t程度で推移.
- 国内生産量は減少傾向.
- 輸入量は増加傾向.
- 輸入先はオーストラリアがほぼ100%.

■ ヤギの新たな活用法の模索

■ 役畜としての利用 (エコシステムエンジニア)



■ 教育的利用



研究サイト



■ 研究サイト



■ 研究計画の概要

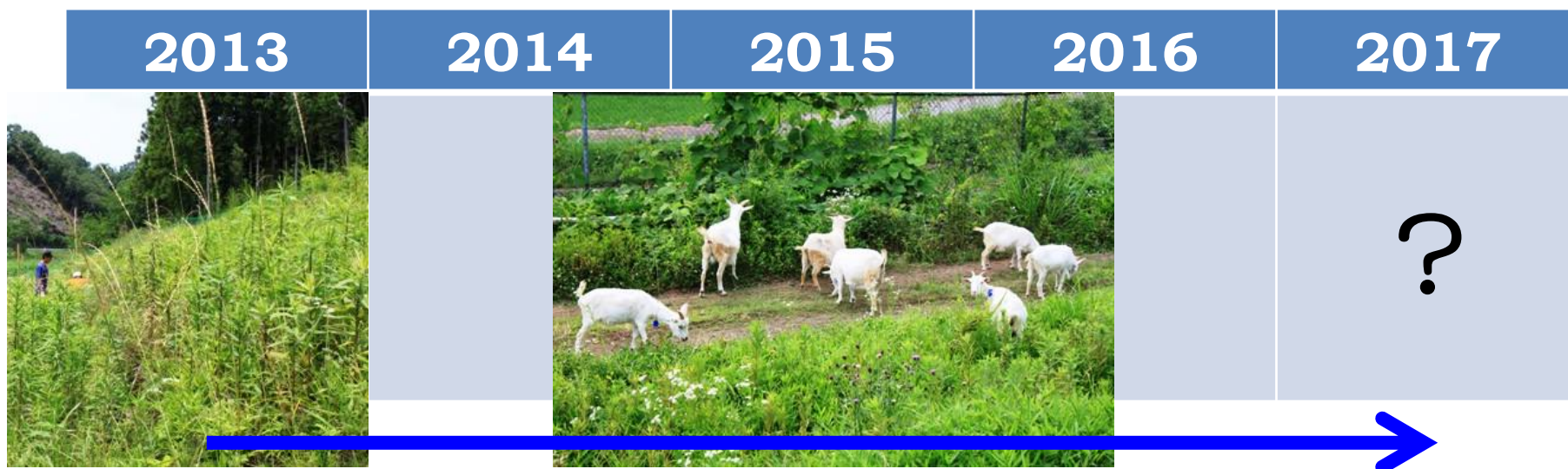
■研究期間：2013年6月-2017年11月（5年間）

■放牧期間：毎年5月上旬-11月上旬

■研究内容：

1) ヤギの放牧が植生に及ぼす影響

2) 荒廃農地におけるヤギの飼育管理技術の構築



■ 研究計画の概要

■研究期間：2013年6月-2017年11月（5年間）

■放牧期間：毎年5月上旬-11月上旬

■研究内容：

1) ヤギの放牧が植生に及ぼす影響

2) 荒廃農地におけるヤギの飼育管理技術の構築

